

第3章 質問紙調査結果の分析

1

児童生徒の自尊感情・自己肯定感等、学習に対する興味・関心に関する状況

「自分には、よいところがある」「先生はあなたのよいところを認めてくれる」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加し、本年度、児童（小学生）は約8割となりました。生徒（中学生）は全国を上回る状況にあります。また、「算数（数学）の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」との質問に、肯定的に回答している児童生徒（小中学生）の割合も、昨年度より増加し、全国を上回る状況にあるなど、学習に対する興味・関心に関する質問の肯定的に回答している児童生徒の割合が、全国と比較して上回る質問項目もあります。

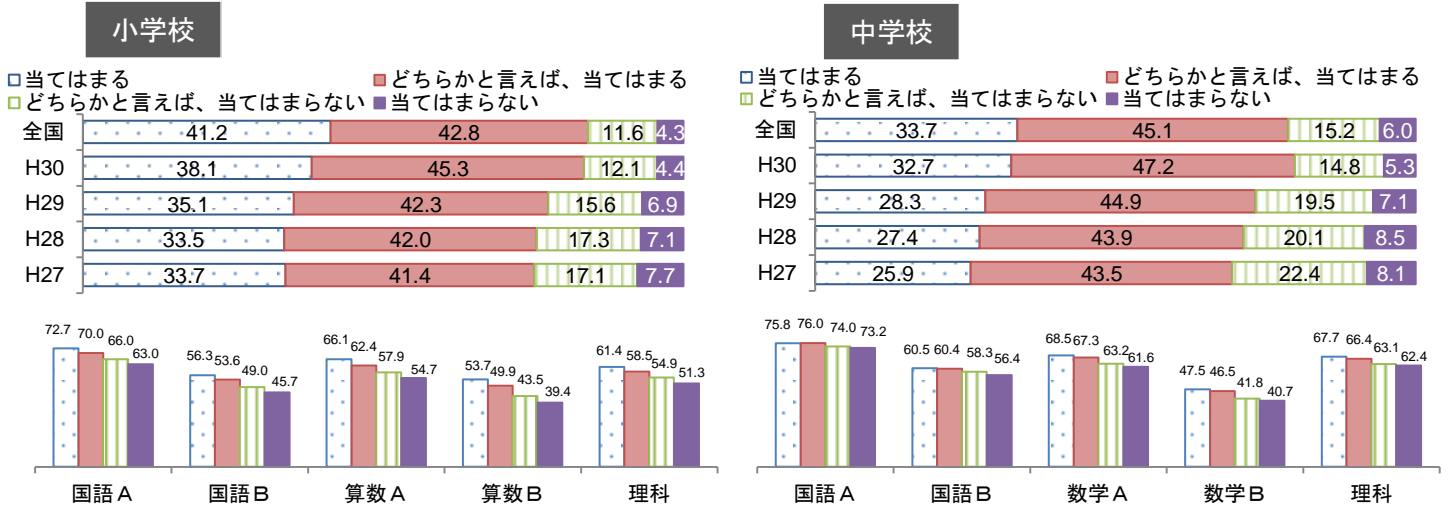
自尊感情や学習に対する興味・関心に関する質問において、肯定的に回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

これからも、多くの大人が子どもたちに関わり、認め、励ましなが、子どもたちの自尊感情や、学習に対する興味・関心をさらに高めていくことが大切です。

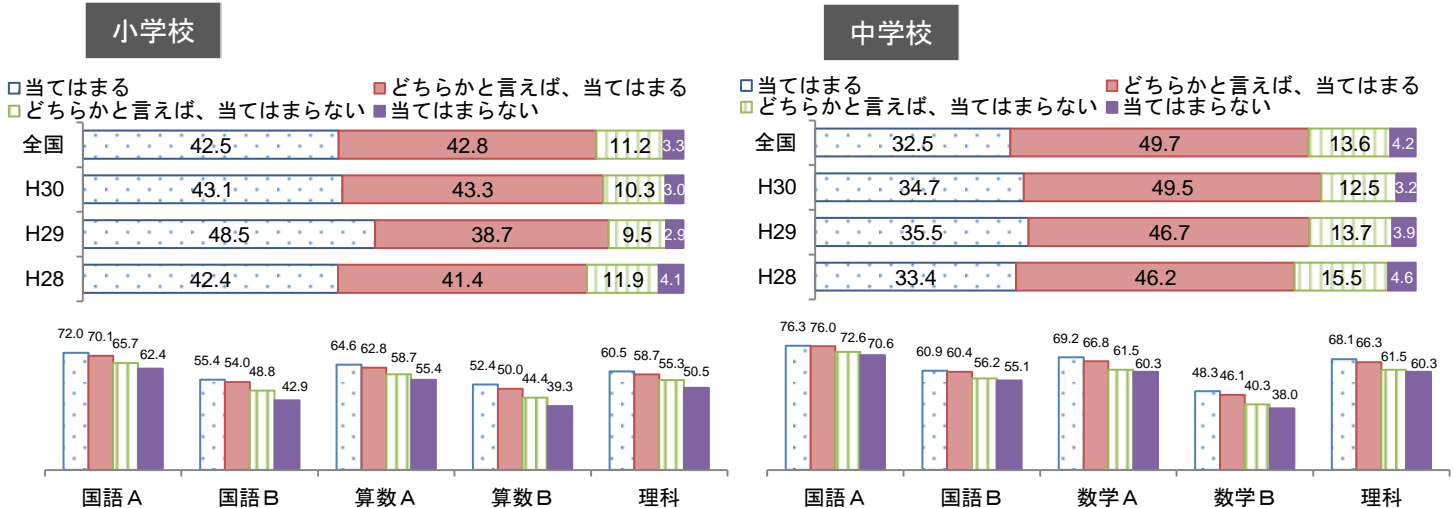
<グラフの見方>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【児童生徒質問紙】（1）自分には、よいところがあると思いますか



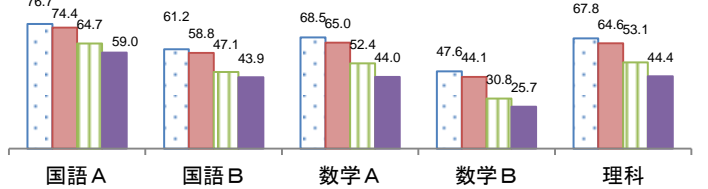
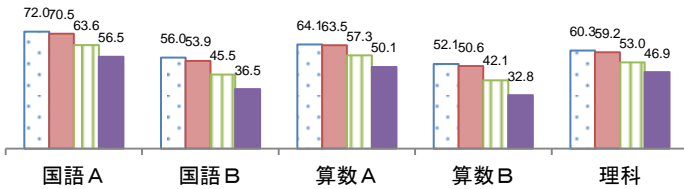
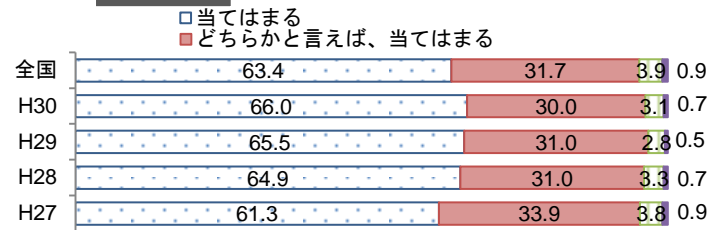
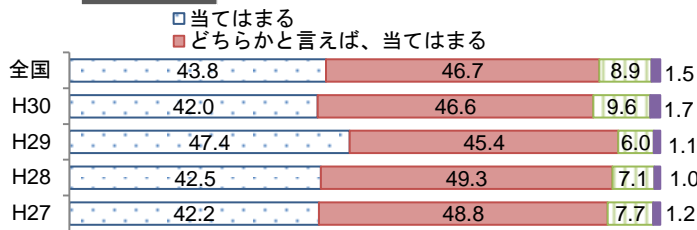
【児童生徒質問紙】（2）先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか



【児童生徒質問紙】(4) 学校のきまり(規則)を守っていますか

小学校

中学校

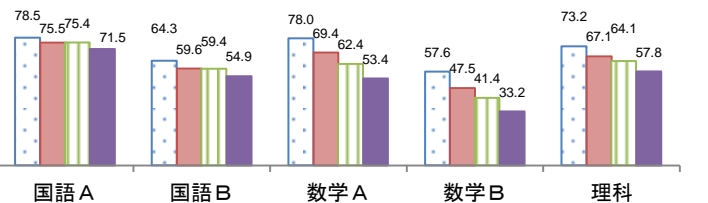
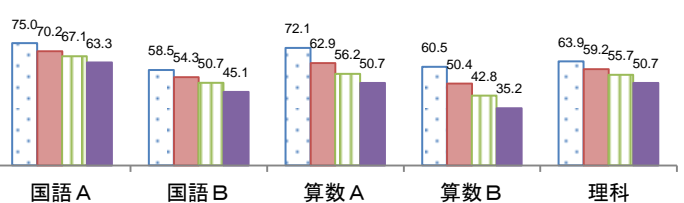
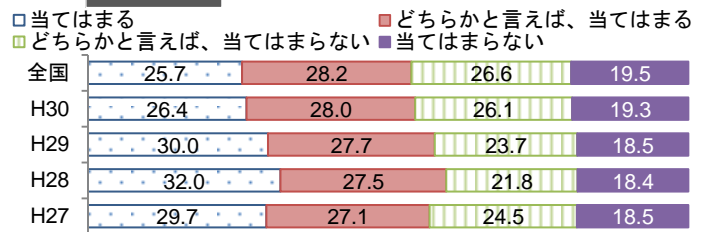
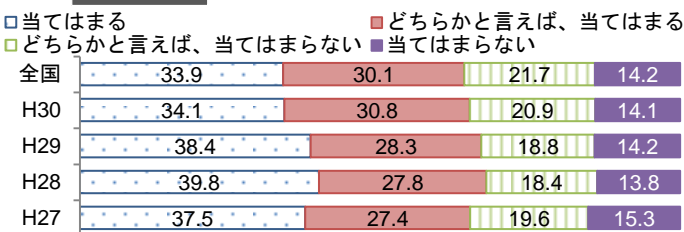


- ・小学校では国語B、算数Bで、中学校では数学A・B、理科で平均正答率と大きな関連が見られます。
- ・論理的に考えたり、相手の言葉を受け止め、伝え合う言葉を持ったりすることが規範意識にも影響していると考えられます。
- ・授業規律が守られているクラスでは、子どもたち一人ひとりの学習活動(考えたり、表現したりすること)が確実に保証されることから、平均正答率に影響していると考えられます。

【児童生徒質問紙】(27) 算数(数学)の勉強は好きですか

小学校

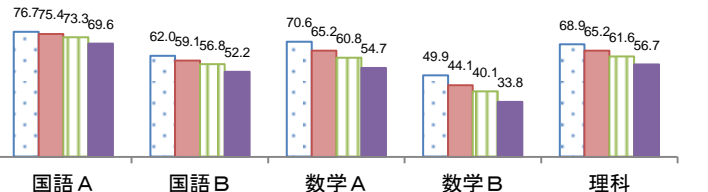
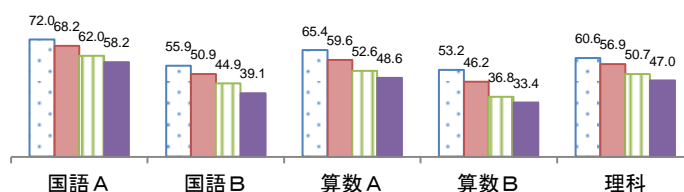
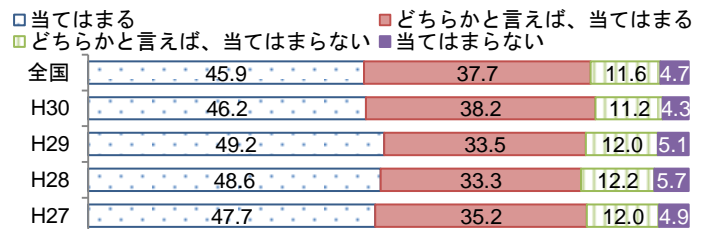
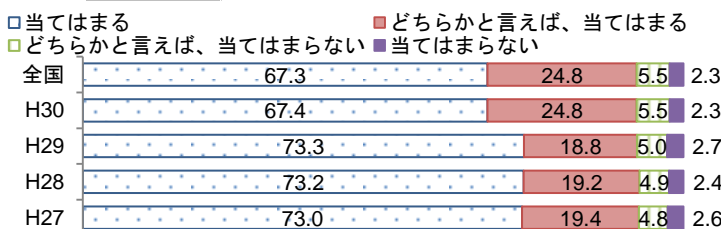
中学校



【児童生徒質問紙】(28) 算数(数学)の勉強は大切だと思いますか

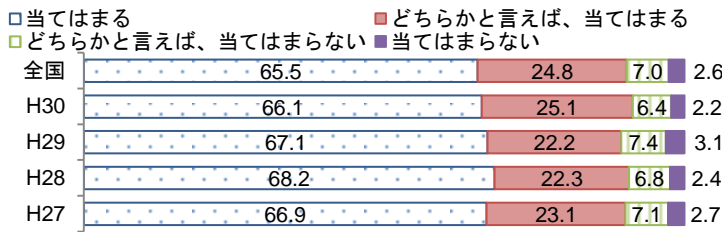
小学校

中学校

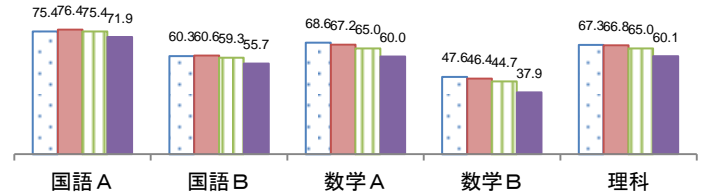
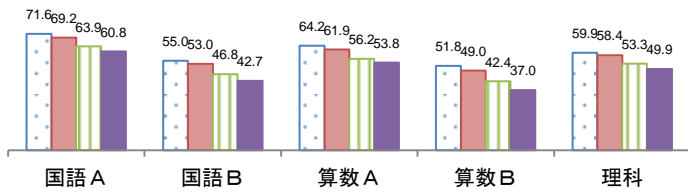
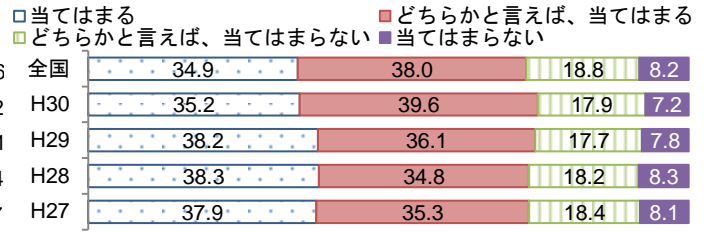


【児童生徒質問紙】(33) 算数(数学)の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

小学校

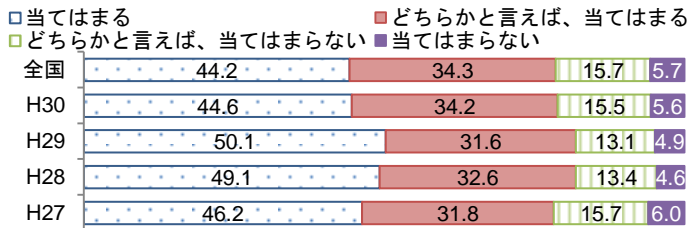


中学校

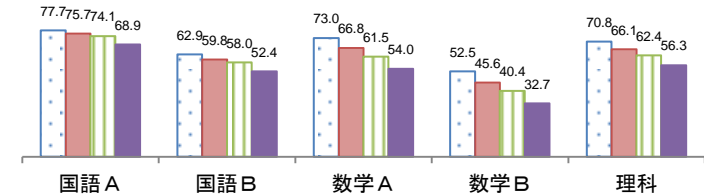
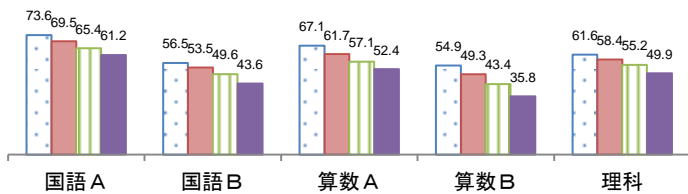
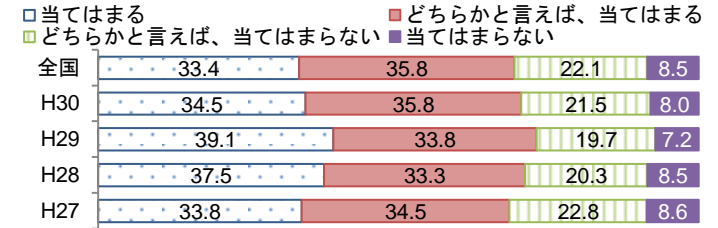


【児童生徒質問紙】(34) 算数(数学)の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか

小学校

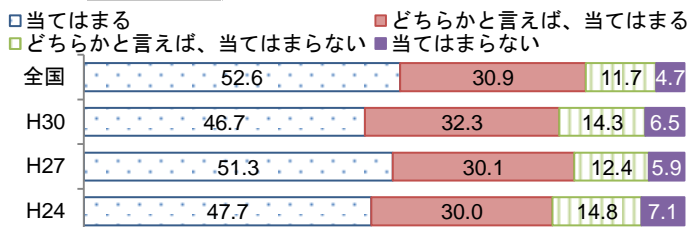


中学校

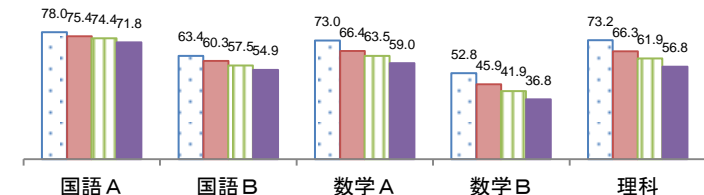
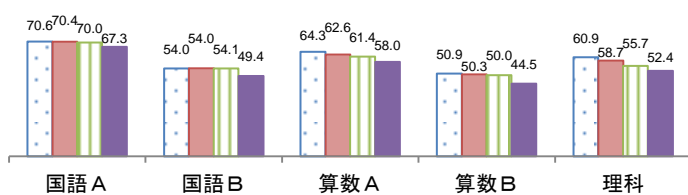
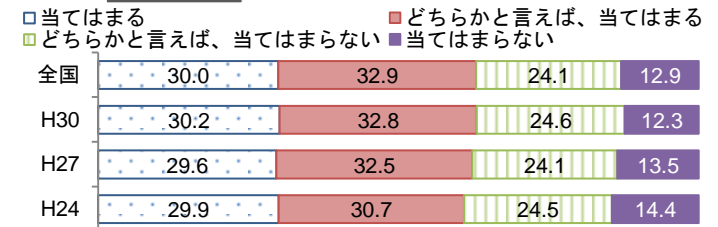


【児童生徒質問紙】(38) 理科の勉強は好きですか

小学校



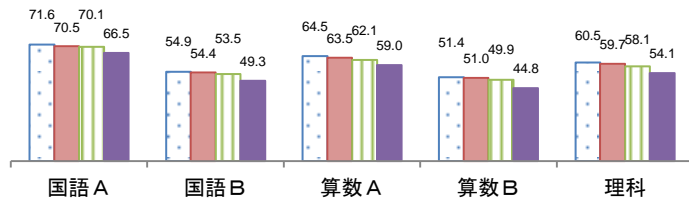
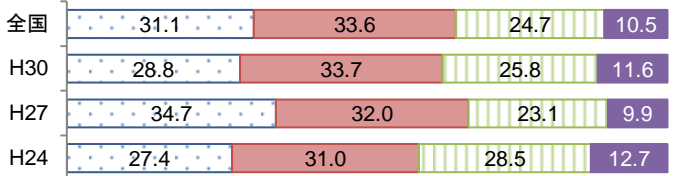
中学校



【児童生徒質問紙】(42) 理科の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考えますか

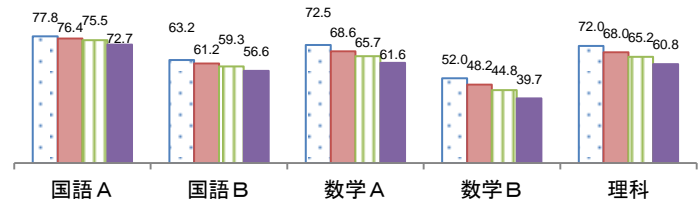
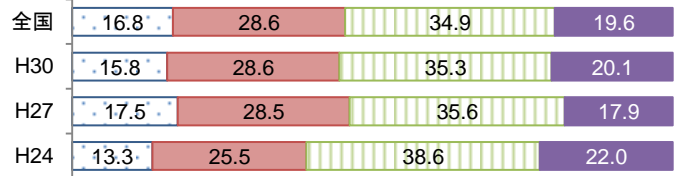
小学校

□当てはまる
 ■どちらかと言えば、当てはまる
 ▨どちらかと言えば、当てはまらない
 ■当てはまらない



中学校

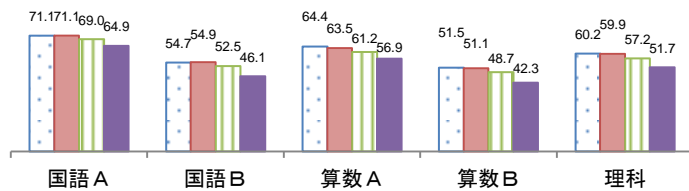
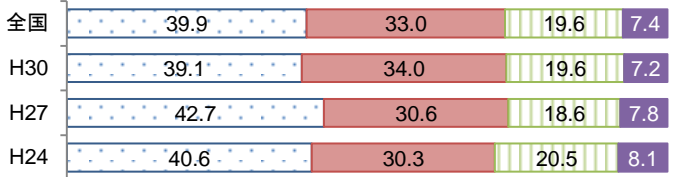
□当てはまる
 ■どちらかと言えば、当てはまる
 ▨どちらかと言えば、当てはまらない
 ■当てはまらない



【児童生徒質問紙】(43) 理科の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

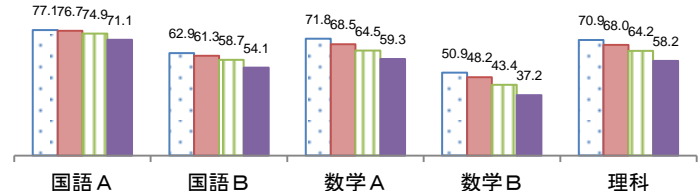
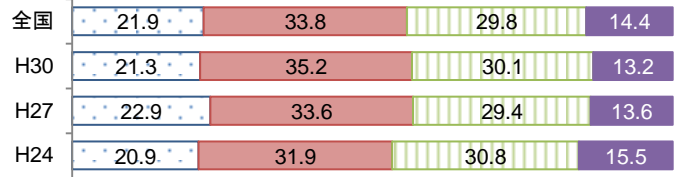
小学校

□当てはまる
 ■どちらかと言えば、当てはまる
 ▨どちらかと言えば、当てはまらない
 ■当てはまらない



中学校

□当てはまる
 ■どちらかと言えば、当てはまる
 ▨どちらかと言えば、当てはまらない
 ■当てはまらない

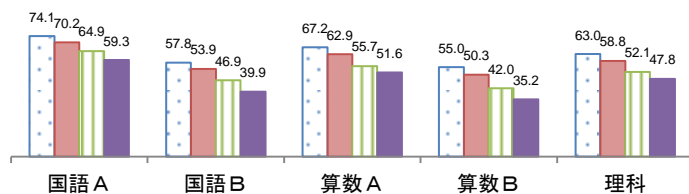
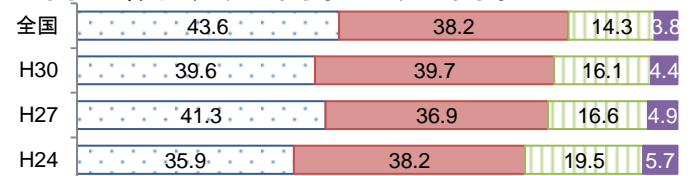


【児童質問紙】(49) 理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えていますか

【生徒質問紙】(49) 理科の授業で、観察や実験の結果をもとに考察していますか

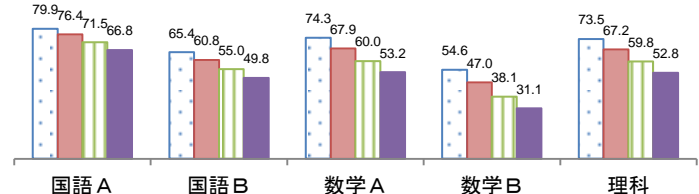
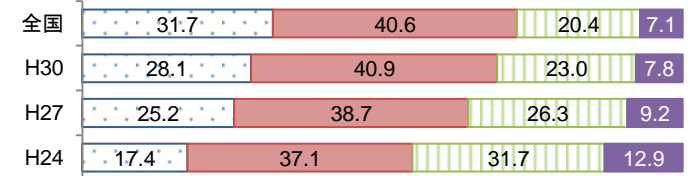
小学校

□当てはまる
 ■どちらかと言えば、当てはまる
 ▨どちらかと言えば、当てはまらない
 ■当てはまらない



中学校

□当てはまる
 ■どちらかと言えば、当てはまる
 ▨どちらかと言えば、当てはまらない
 ■当てはまらない



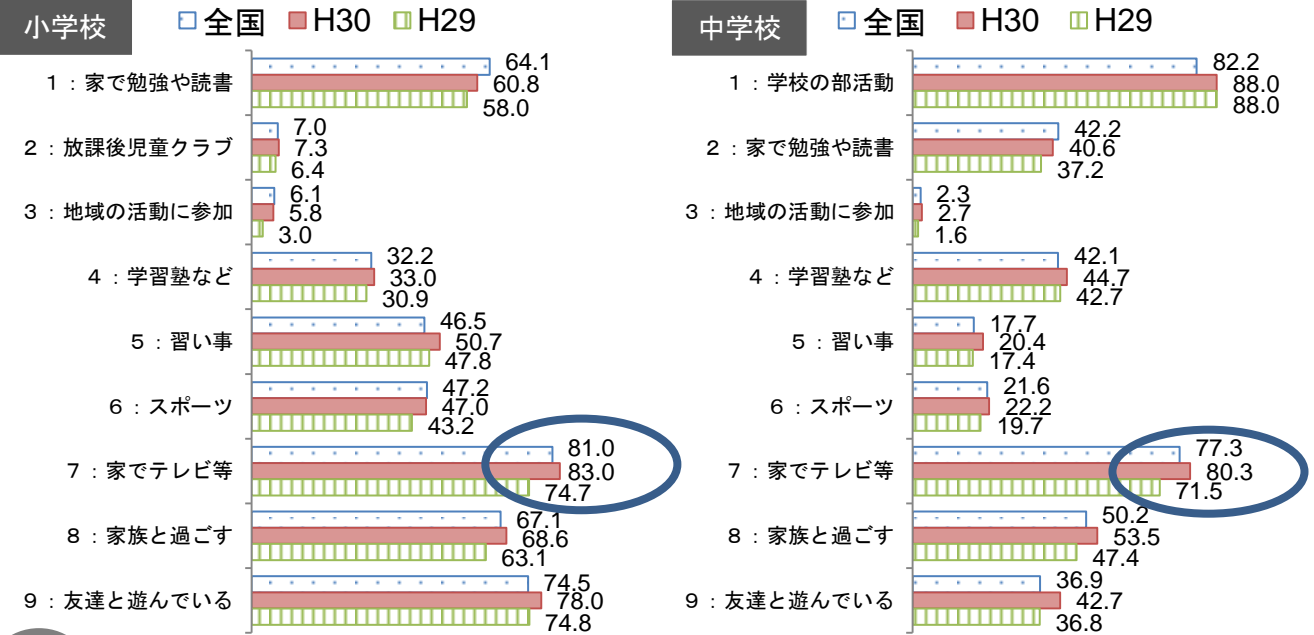
2 児童生徒の放課後の過ごし方に関する状況

「放課後に何をしておすることが多いですか」との質問に、「テレビやビデオ・DVDを見たり、ゲームをしたり、インターネットをしたりしている」と回答した児童生徒（小中学生）の割合は昨年度より増加し、8割を超え、全国を上回る状況にあります。

テレビ、ゲーム、スマートフォン等の使用について、家庭で話し合ってルールを決めて守り、自己管理能力を育てることが大切です。

<グラフの見方> ・棒グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。
 ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【児童生徒質問紙】(16) 放課後に何をしておすることが多いですか（当てはまるもの全て選択）



3 児童生徒の家の人との対話に関する状況

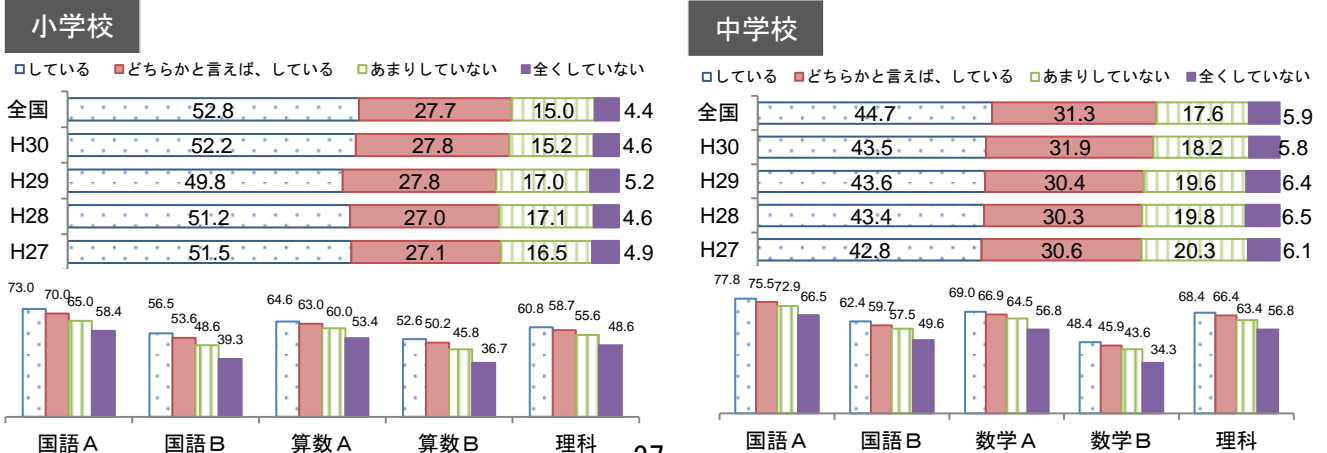
「家の人と学校での出来事について話をしますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒（小中学生）の割合は昨年度より増加し、児童（小学性）は8割となりましたが、児童生徒ともに全国を下回る状況にあります。

対話をしている児童生徒と全くしていない児童生徒の平均正答率は、全教科で10ポイント以上の差が見られます。

家族でコミュニケーションを深める時間を計画的に取り入れていくことが大切です。

<グラフの見方> ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
 ・下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
 ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【児童生徒質問紙】(18) 家の人と学校での出来事について話をしますか



4 児童生徒の家庭学習に関する状況

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか」との質問に、「1時間以上勉強している（平日）」と回答した児童生徒（小中学生）の割合は、昨年度より増加し、改善されていますが、依然として全国を下回る状況にあります。また、「家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加し、生徒（中学生）は、全国を上回る状況にあります。

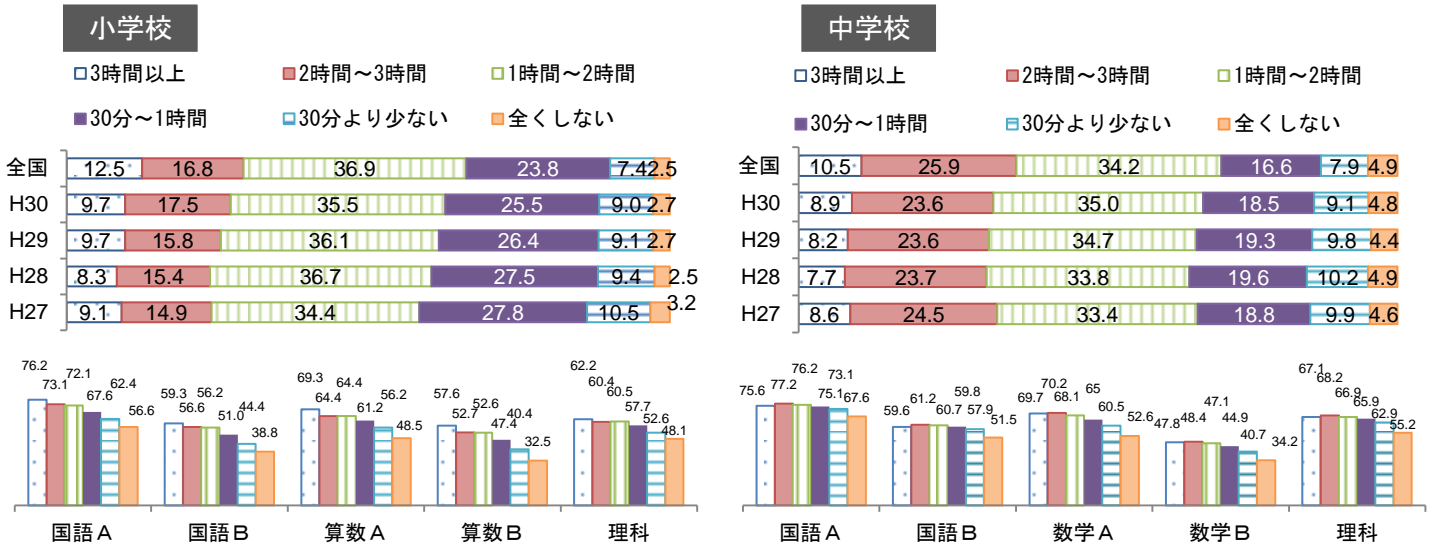
学習習慣（小：1時間以上、中：1～3時間）が確立されている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。中学校は、平日の学習時間が「2時間以上、3時間未満」と回答した生徒の平均正答率が全ての教科で最も高くなっています。

睡眠時間を確保しつつ授業の復習を含めた学習の時間が取れるよう、計画を立てることが必要です。

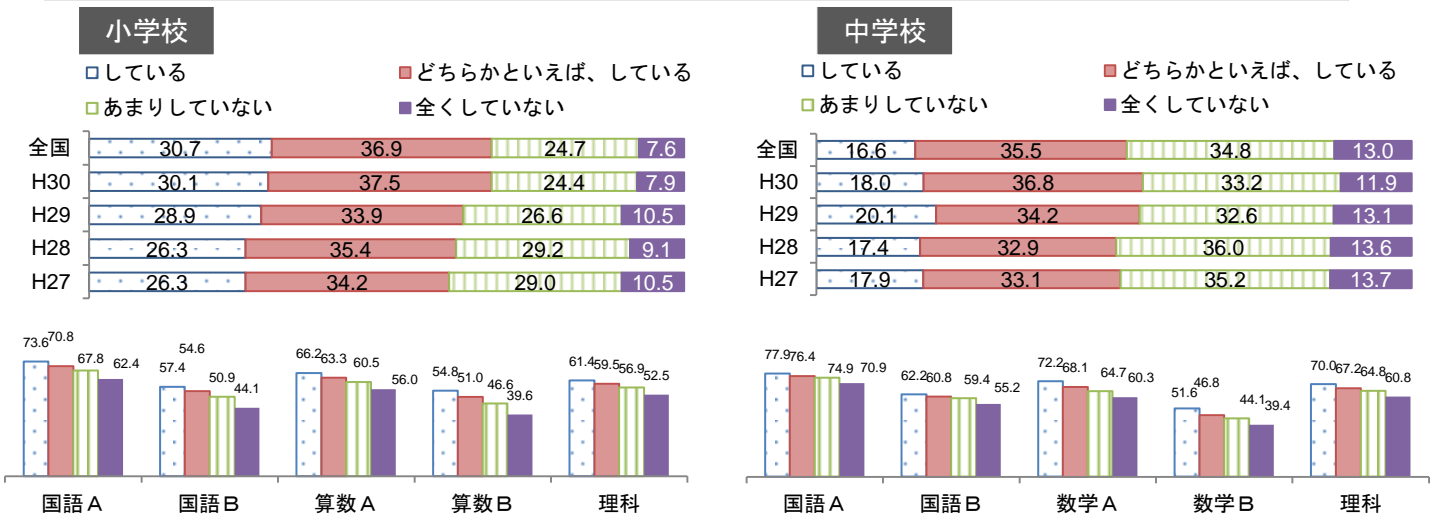
<グラフの見方>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

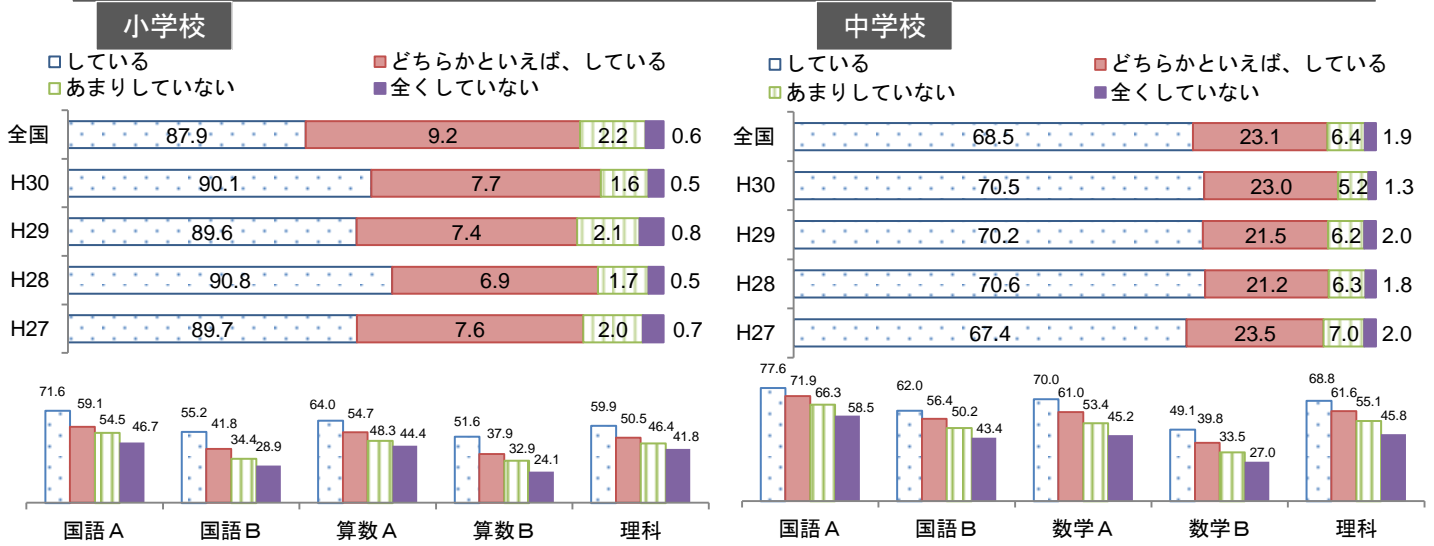
【児童生徒質問紙】(14) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



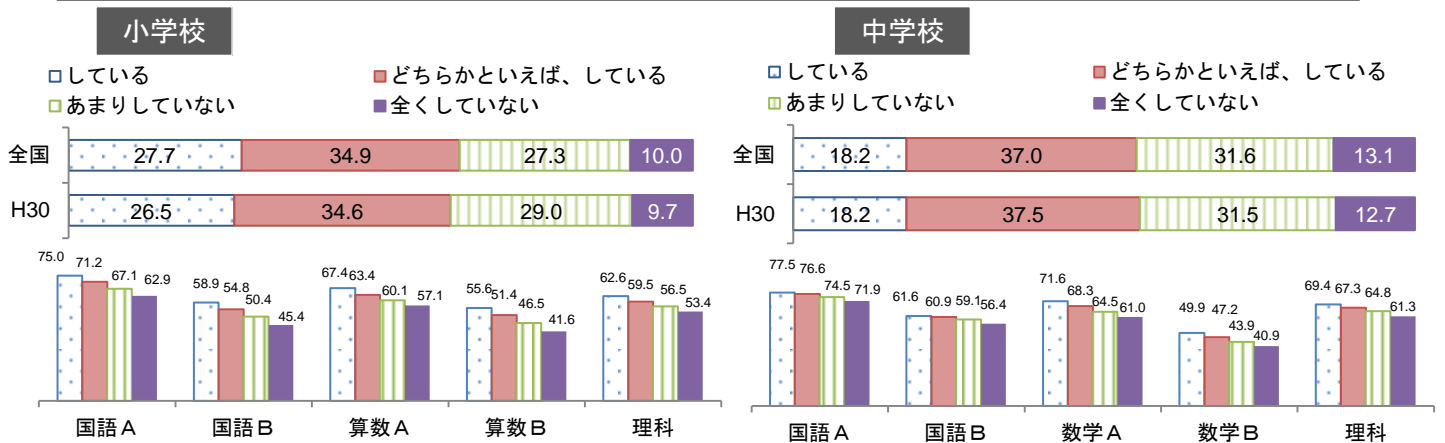
【児童生徒質問紙】(10) 家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか



【児童生徒質問紙】(11) 家で、学校の宿題をしていますか



【児童生徒質問紙】(12) 家で、学校の授業の予習・復習をしていますか



5 児童生徒の読書習慣に関する状況

「学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」との質問に、「授業時間以外に10分以上読書をしている（平日）」と回答した児童生徒（小中学生）の割合は、昨年度に比べて増加し、改善されていますが、依然として全国を下回る状況です。

読書習慣（小中とも10分以上）が確立されている児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

大人自身が率先して読書を行い、読んだ本について語り合うことなどをおして家庭読書（家読（うちどく））を促進し、子どもたちの生涯にわたる読書習慣を確立することが大切です。

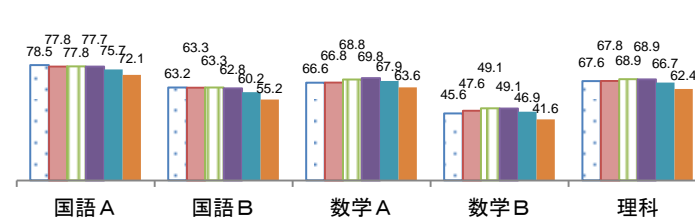
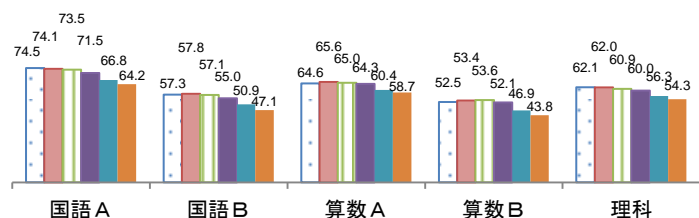
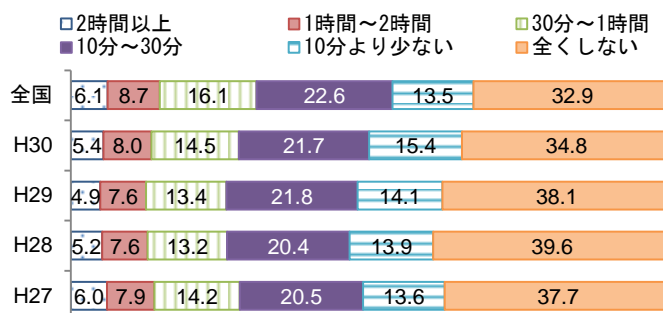
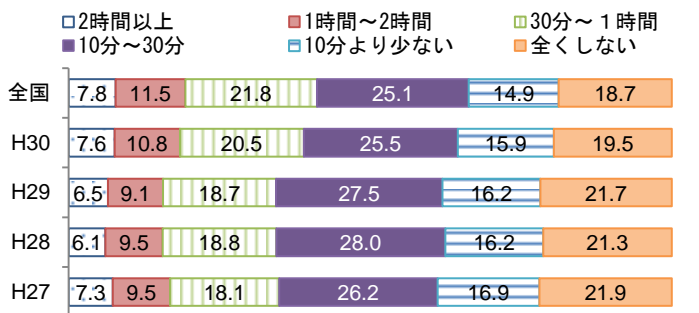
<グラフの見方>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【児童生徒質問紙】(15) 学校の授業時間以外に、普段（月曜日～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

小学校

中学校



6

主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導の改善に関する状況

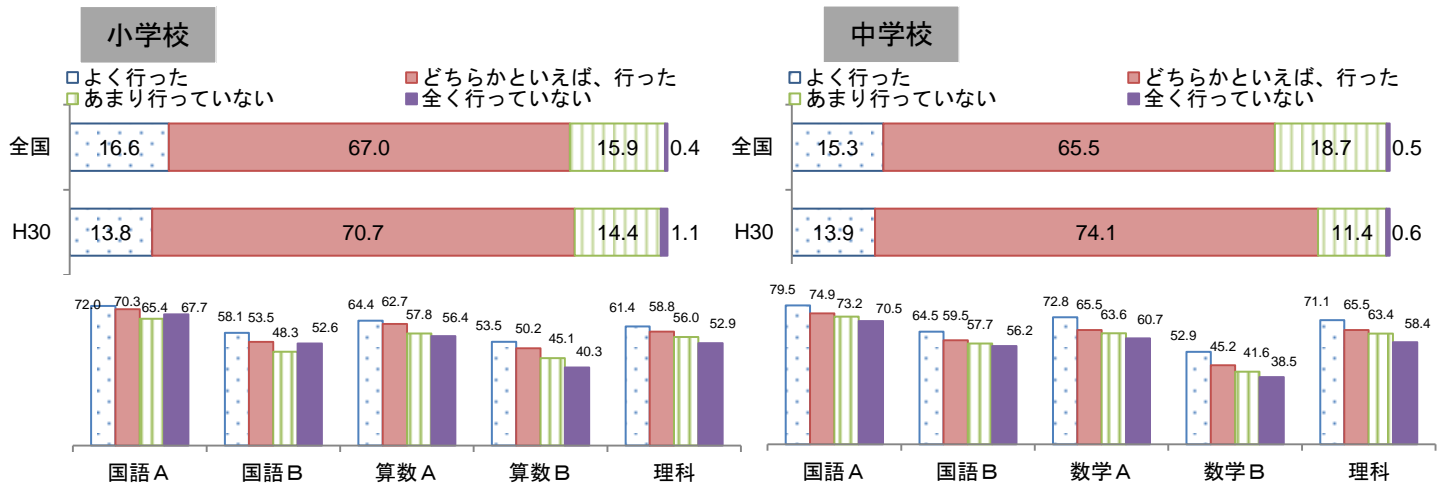
学校に対し「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（新規）」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は8割を超え、全国を上回る状況にあります。また、児童生徒（小中学生）に対し「授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思いますか（新規）」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は7割を超えています。この質問に肯定的に回答した児童生徒の方が、全教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

児童生徒が課題の解決に向けて自ら進んで取り組めるよう、引き続き、学習の見通しを持てるめあての提示や、学習内容での振り返る活動の設定、発問内容や授業形態を工夫することが大切です。

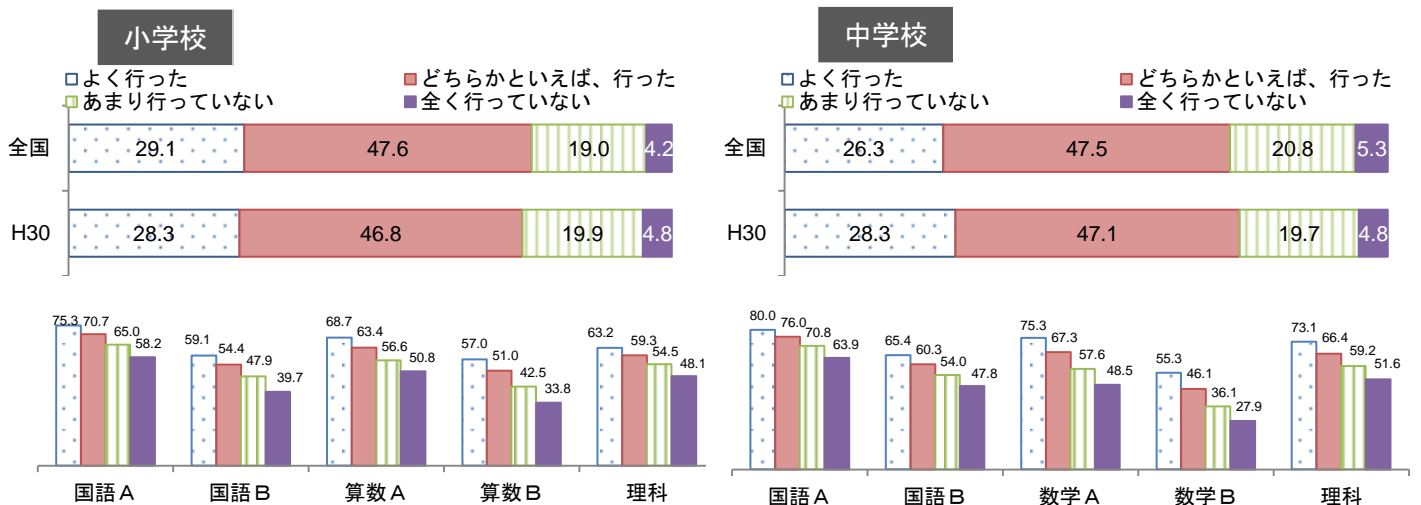
<グラフの見方>

- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【学校質問紙】(13) 調査対象学年の児童生徒は、授業では課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか（新規）



【児童生徒質問紙】(55・52) 5年生まで [1、2年生のとき]に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から進んで取り組んでいたと思いますか（新規）

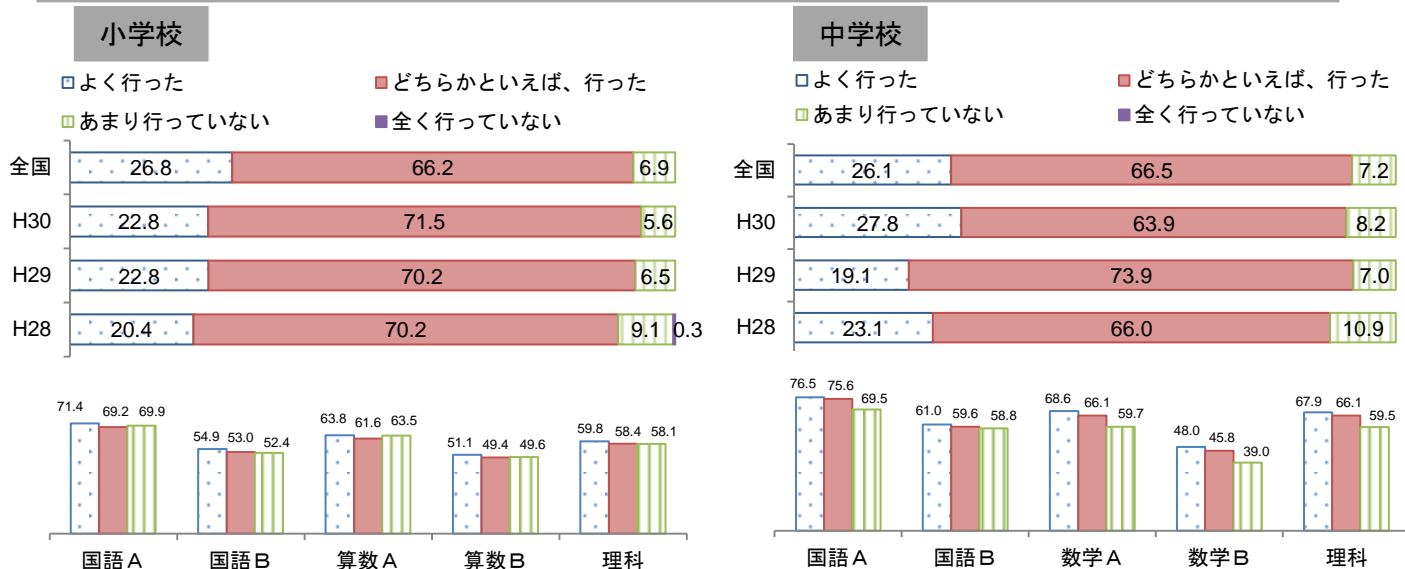


学校に対し「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか」との質問に、肯定的に回答した小中学校の割合は9割を超え、小学校は、昨年度より増加し、全国を上回る状況にあります。

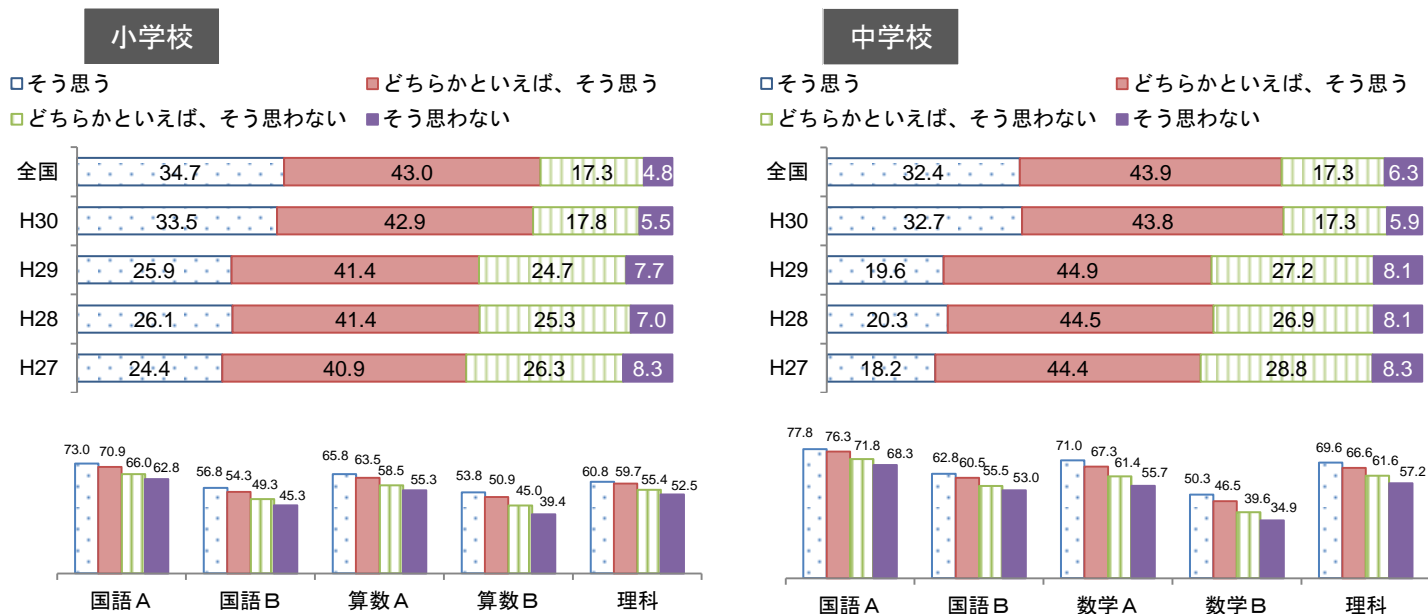
児童生徒に対し「学校の友達との間で（生徒の間で）話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は、昨年度より増加し、7割を超えています。この質問に肯定的に回答した中学校及び児童生徒の方が平均正答率が高い傾向が見られました。

習得・活用・探究の学びの過程の中で、子どもたち自身が、自分の考えを深めたり、広げたりすることができたという実感を持てるよう、引き続き、効果的な話し合い活動を工夫することが大切です。

【学校質問紙】(22・21) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



【児童生徒質問紙】(57・54) 学校の友達との間で（生徒の間で）話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



7

学校の組織的な取組に関する状況

「児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している」との質問に、肯定的に回答している小中学校の割合は、昨年度より増加し、9割を超え、小学校は全国を上回る状況にあります。また、「全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」との質問に、肯定的に回答している小中学校の割合は約98%で中学校は、昨年度より増加し、小中学校ともに全国を上回っています。

これらの質問に肯定的に回答した小学校の方が、全教科で平均正答率が高い傾向が見られます。

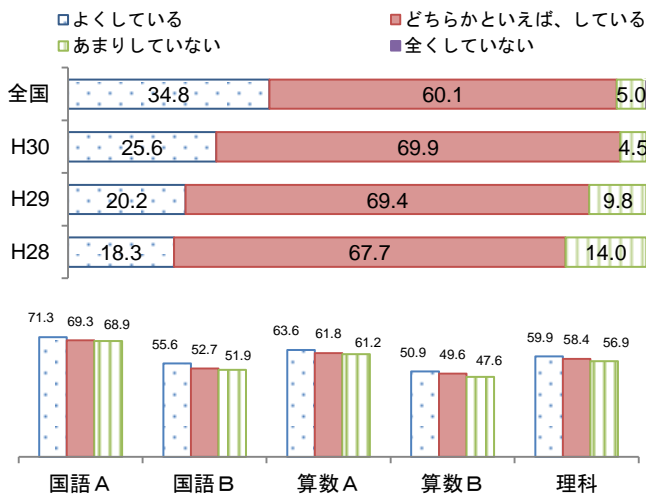
全国学力・学習状況調査等の結果を活用して課題の改善に向けたPDCAサイクルを確立し、学習内容の理解・定着状況を図るよう組織的に取り組むことが大切です。

<グラフの見方>

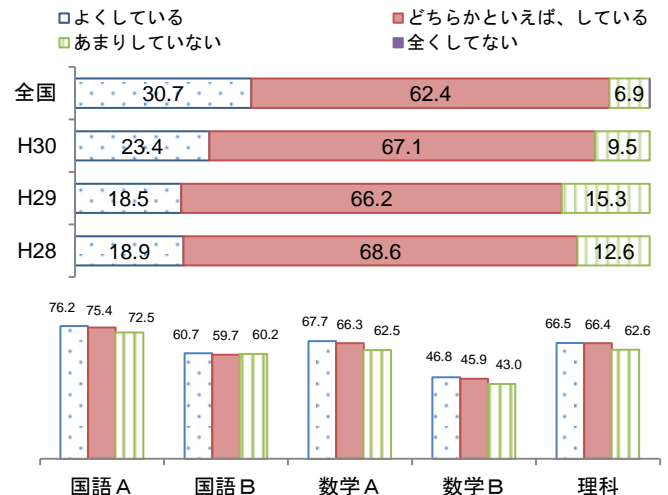
- ・上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
- ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【学校質問紙】(18・17) 児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか

小学校

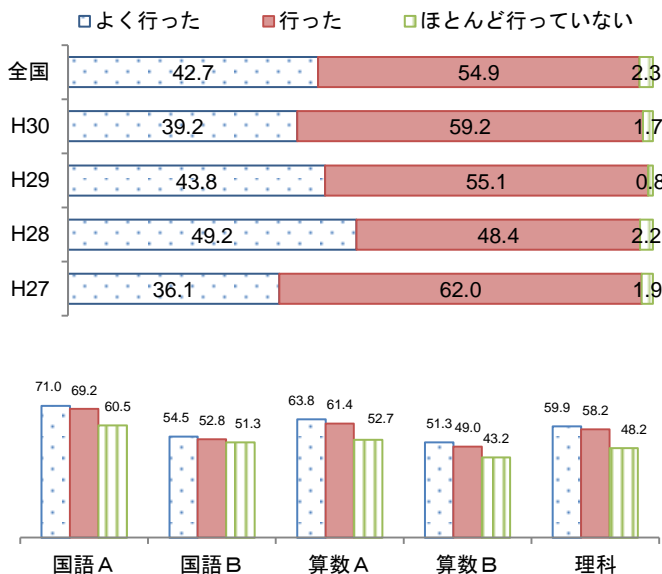


中学校

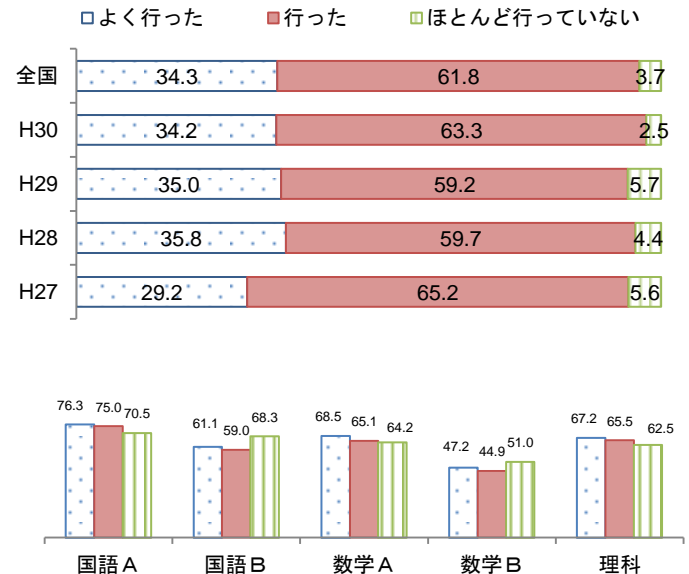


【学校質問紙】(31・30) 全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した

小学校



中学校



8 地域との関わりに関する状況

「今住んでいる地域の行事に参加している」との質問に、肯定的に回答した児童生徒（小中学生）の割合は、全国を上回る状況にあります。児童（小学生）は、昨年度より減少していますが、生徒（中学生）は昨年度より増加しています。

「地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか」との質問に、肯定的に回答した児童生徒の割合は昨年度より増加していますが、依然として全国と比較して下回る状況が続いています。

ボランティア活動に参加したことがあると回答した児童生徒の方が、平均正答率が高い傾向が見られます。

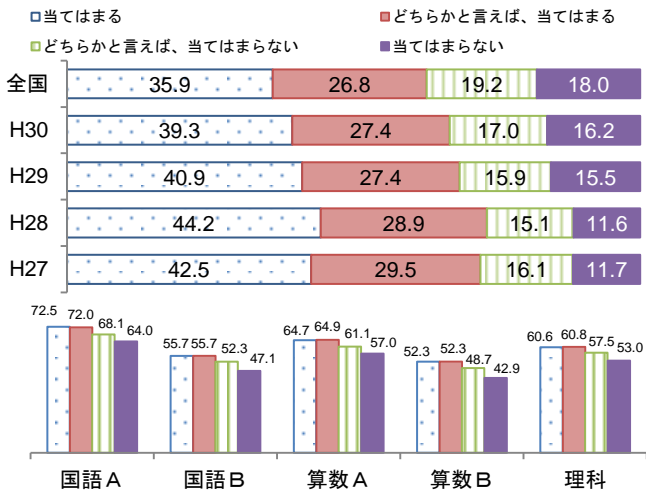
子どもたちが地域や社会のことに関心を持ち、積極的に地域に関わるよう、引き続き、学校と地域が連携しながら取組を進めていくことが大切です。

<グラフの見方>

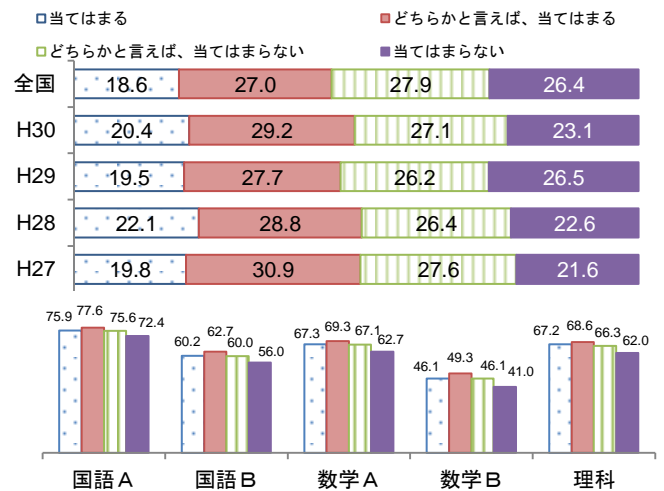
- ・ 上段の帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年の状況を示します。
- ・ 下段の棒グラフは、質問に対する回答別の平均正答率（H30年度）を示します。
- ・ グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【児童生徒質問紙】(20) 今住んでいる地域の行事に参加している

小学校

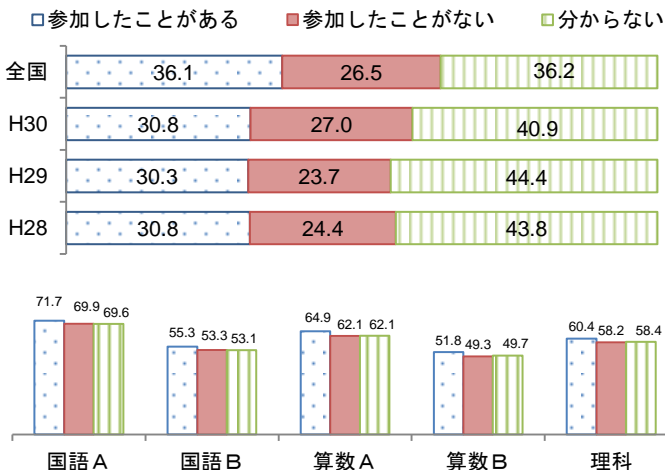


中学校

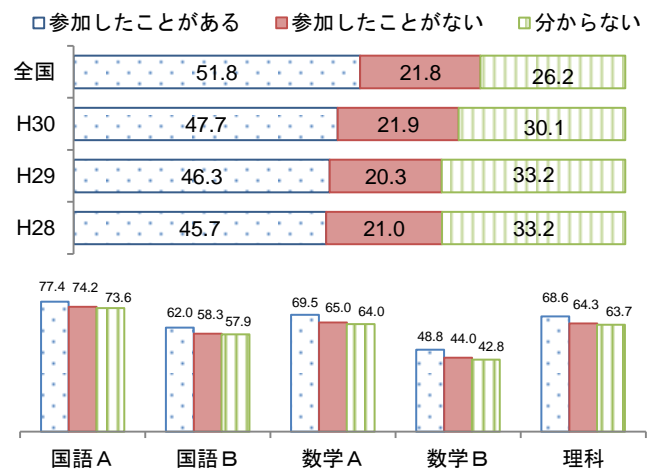


【児童生徒質問紙】(23) 地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか

小学校



中学校



9

学校と児童生徒との意識の差の状況

学校に対し「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか」との質問に、肯定的に回答した割合は約8割で、小中学校ともに全国平均より高い状況です。

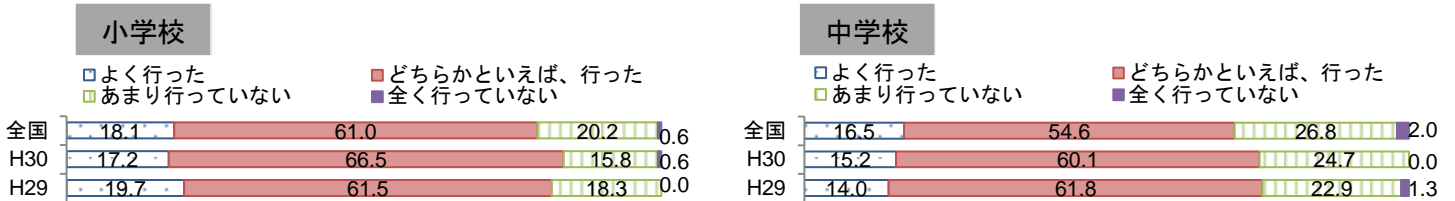
児童生徒に対し「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか」との質問に、肯定的に回答している児童生徒の割合は4割程度にとどまっています。

また、学校に対し「前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」との質問に肯定的に回答している割合は、小学校は約8割、中学校は100%に近い状況です。一方、児童生徒に対し「将来の夢や目標を持っていますか」との質問に肯定的に回答している割合は、児童（小学生）は約8割、生徒（中学生）は約7割で、中学校と生徒との意識には約3割の差があります。

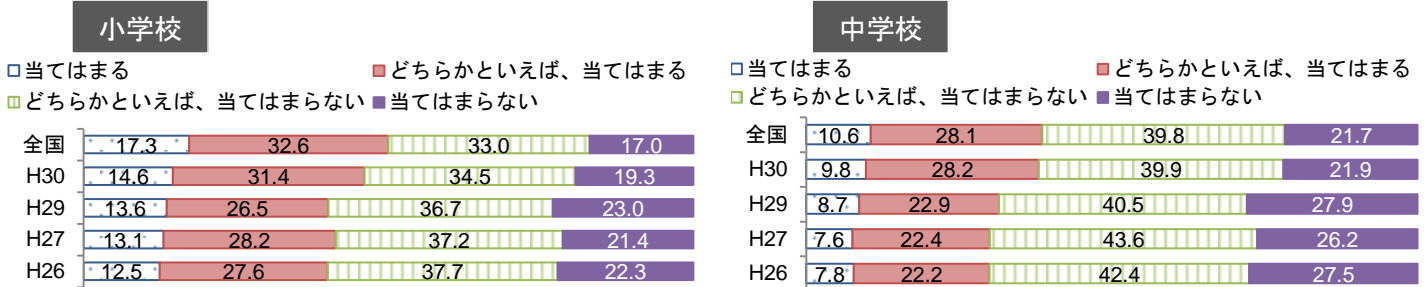
児童生徒の意識を客観的に把握しながら、意識の変化につながるように、学校全体で取組を進めることが大切です。

<グラフの見方> ・帯グラフは、質問に対する回答別の割合を示します。年度の帯グラフは、本県の経年を状況を示します。
 ・グラフの値は四捨五入した値のため、合計が100%にならない場合があります。

【学校質問紙】(56・54) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えさせるような指導を行いましたか

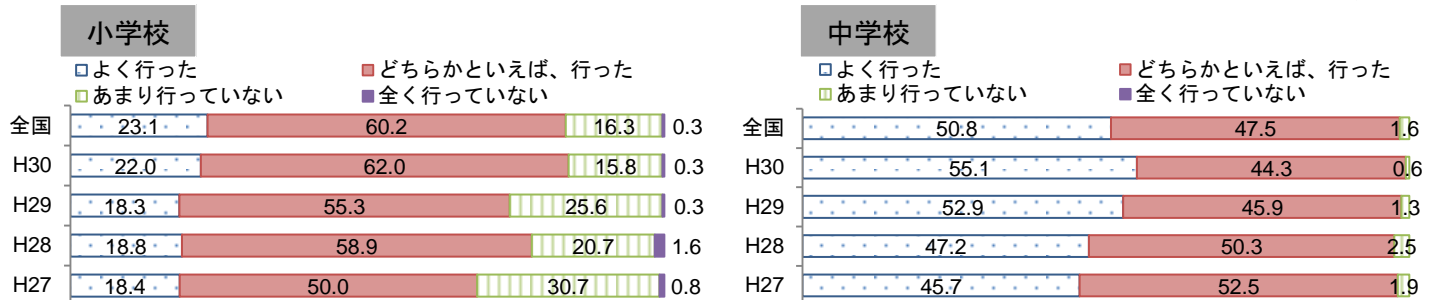


【児童生徒質問紙】(22) 地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか



※平成28年度は質問項目にありません。

【学校質問紙】(23・22) 調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか



【児童生徒質問紙】(3) 将来の夢や目標を持っていますか

